

### 会員みなさんへ

#### 理事紹介 第2弾!!

安達 美和子

協育ネット事務局長 (2期生)

「協育ネット」会員みなさまは、それぞれの組織・フィールドでご活躍のことと存じます。仲間同志のつながりを組織とすることの重要性を今頃にして強く実感しております。「目指すこと」や「やりたいこと」「生きがいとしての活動」を企画し実践できることは、仲間がいて、「協育ネット」があって、そして会員みなさまのご協力のおかげと心より感謝申し上げます。

そこで、今回は私が協育ネットの事務局長としてコーディネート役をさせていただいている2つの事業をご紹介します。まず、平成25年度からの3カ年、文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」を受託し「温泉コンシェルジュコース」の設立と運営に関わらせていただきました。引き続き、実施校の別府溝部学園短期大学で、別府の温泉をベースに学びを通じた健康、観光等に係る地域の魅力を発信できる人材育成のため、新たな学習システムと雇用の創出が期待されるよう学修成果(修得した能力)の可視化を図り、就業やキャリアアップ等へつなげるために様々な機関と連携し進めています。次に、大分大学ボランティアサークル「フォーバル」は学習支援のサークルで、「コネクト」は別府を活動範囲とする1つのサークルで、別府で育った学生が子どもたちに何かできないことがないだろうか、「何か役にたちたい」という志の学生が集まり、平成25年にサークルが設置されました。活動は、勉強のお助けマンや遊び相手や地域の活動等に参加させていただいています。現在は、別府出身の学生だけでなく愛媛県、山口県、佐賀県、大阪府等々各県から同志が集まってきています。学生には、新しい出会いの機会をたくさん経験して欲しいと願っています。社会教育の現場での様々な経験が社会人への大きな財産につながることを期待し取り組んでいます。

### 事業報告 第6回『子どもと本を結ぶあなたへ…』講演会は大盛況でした。(^-^)/



東京子ども図書館  
理事長 張替恵子氏

講演会当日はあいにくの雨でしたがたくさんの参加者で会場は満席状態、参加されたみなさん張替先生のお話に熱心に耳を傾けていました。午後からの交流会では参加者の身近な疑問に張替先生は丁寧に受け答え、アットホームな交流会となりました。参加者のくわしいアンケート結果は次回HPに掲載予定です。当日の感想を寄せていただいたので紹介します。

#### 「子どもと本の幸せな出会いのための私たちができること」の講演会に参加して



(交流会の様子)

私は中学校で学校司書をしています。デジタル書籍やSNSの普及で中高生、大学生の本離れと言われてずいぶんたちます。それでも昼休みの図書館は本が好きの子や、のんびりする子や、時には居場所のない子やらが来ます。図書館は学校で唯一誰でも自由に入れる場所です。まだアメリカで人種差別があった時代でも、図書館だけは自由だったというお話の本にとても感動したことを鮮明に覚えています。東京子ども図書館の張替先生のおっしゃった言葉が胸にいつまでも響いています。「本を読まないことを、後ろめたいと思わないでいいのよ。一生のうちいつか大切な本に出会えば、それでいいのよ。」なんて素敵な言葉でしょうか。この言葉こそ、全ての子どもたちに大人の私たちに伝えたいと思いました。そして図書館で手に取ってくれる本があなたの大変な本になったらいいな、幸せな出会いになったらいいなと、張替先生の言葉を胸におぼさん司書の奮闘は続くのでした。 生嶋 紀子

今回は、張替先生を招いての講演会で非常に貴重な機会を得ることができたと感じました。張替先生は、初めてお会いしたのですが親しみやすくほんわかした雰囲気の方で自然と話に引き込まれていきました。講演会では、先生が今までの人生の中で出会った人たちや本、経験を聞くことができました。幼少時代、特に先生のお父様が民族系の本を好んでいたことから本と関わる生活をしてきたこと、その影響もあって大学は図書館情報学を学んだことなどを話され、子どもの頃から自然と本と関わる機会があったことが今の先生の仕事にも繋がっていることを知りました。図書館員として働く中で感じたり、学んだ子どもと本の関わり方についてもなるほどと思われましたが、同時に人生についても学ばされました。私も小さい頃は母から読み聞かせをよくしてもらっていて、母に読書の楽しさや良さを教えてもらいました。そのため読書の良さや大切さを分かってはいましたが、普段からあまり読書をする方ではないので、読書と聞くと勝手に罪悪感のようなものを感じていました。先生にこのことについて質問させてもらおうと、先生は「いつかこの本はよかったと思えるような素敵な本に出会えるはず。その出会いを大切に」とおっしゃいました。私はその言葉を聞いて、本を楽しむということを忘れていたことに気づかされました。本も人や出来事と同じように人生の中で出会うものの一つであり、数ではなく心を動かされたその一瞬がとても大切だということをとても感じました。思い返せば夢中になって読んだ本もあったので、あの頃の気持ちを思い出し、これからはまた素敵な本への出会いを求めて本を楽しんで読もうと思いました。今回の講演会では本当の意味で本を楽しむということを教えてもらうことができました。個人的にこのことについて知れたのはとてもよかったです。今後のサークル活動においてもこの気持ちを忘れずにいようと思います。最後に、このような機会を設けてくださってありがとうございました。大分大学福祉健康科学部2年 上野 わかな

# 会員さんの活動紹介



有田 哲則

2期生

今回は有田哲則さん取材しました。6月の協育ネット総会後に開催した「語ろうよ会」で有田さんの活動をお聞きしこれは実際に現地で取材せねばと朝の交通指導から密着取材してきました。(^^)/  
写真の交通指導は16年前から毎日行っています。翌年からは週1回子どもたちに朝の読み聞かせ活動も始めたそうです。おさんはもう大学生になっていますがこの活動は今も続けています。すごいです！  
この活動を続ける有田さんは「子どもは家の宝・地域の宝・国の宝」であると強い思いで継続されているんです。



朝の交通指導の様子



(小学生の教室で読み語り) (この日は幼稚園にも)

※有田さんの読み語りは紙芝居、この方が子どもたちの表情が見渡せるそうです。

この他にも自宅でのみかん狩り。ジャガ芋堀。サツマイモ堀等に支援学級や幼稚園、保育園そして子ども会の子ども達を招待しています。当日学校での取材後に畑にも案内して頂きました。広い畑で子どもたちがワイワイと芋掘り体験をする。子どもたちや学校保護者の皆さんにも喜ばれています。

今年から大分市子どもの居場所づくりモデル事業の「別保の森 もりもりげんき館」に子どもたちが食べる食材の提供も始めたそうです。安心安全の食材で子どもたちの健全育成に寄与しています。

## 会員の皆さんにPR

子どもは最大の宝もの と思ういが、あれば私達がすべきことはおのずと見えてくるのではないのでしょうか。

## 今後取り組みたいこと

気持ちのうえでやりたいことはまだまだありますが、齢のことを考えると現状が限界です。体の動く限り、思考力が衰えない限り現状維持で...と思っています。

これからもお元気のできる限り活動を続けて頂きたいと思いました。(上原)



(収穫が楽しいサツマイモ畑) (植えたばかりのジャガ芋畑)

## 協育ネット副理事の園部さん身辺雑記(コラム)後半

園部 秀靖

大分県『協育』アドバイザー ネット副理事長

### ◆日々の散歩からのあれこれ

年頭に、4000歩を目標に毎日散歩をしようと考えた。用具は、ノルディックステッキ。身体安定保持と腕力補強に役立つ。今では、片道2000歩の吉岡家の千歳城址コースが定着してきている。吉岡氏は、大友宗麟の時代の家臣。城跡に立つと、眼下に、大野川・乙津川が流れ臨海工業地帯も遠望できる。史跡の案内板はないが、今は、児童公園。津波発生時の避難場所でもある。毎回、ベンチに腰を下ろして座る。走り回る子どもたちの歓声が響き渡り、グランドゴルフに興じるお年寄りの姿も平和で楽しそう。傍を走ったり、歩いたりする高齢者もあり、挨拶を交わし合う。行き帰りに出会った人と立ち話をするこもある。立ち寄り場所もできた。一人は、城址に近い郷土史家。もう一人は、以前太極拳を共にやった同志。94歳になった今も道場に通っているという。グランドゴルフの優勝カップが10数個。毎日一万歩は歩くという。その元気にビックリ仰天。読書はもとより、川柳や詩作を始めたという。更には、大友顕彰会のメンバーでもあるという。ここでまた、目標とすべき人物に遭遇したのだ。私も、健康的な生活の構築のため、キョウイク(行く)・キョウヨウ(用)・チヨキン(貯筋)を心掛けながら、併せて、吉岡氏や大友氏の興亡を中心に歴史の深掘り始めたい。ついでながら、史跡が公園になっている場合、是非とも歴史案内版を設置したいと考えている。

(注・所属しているNPO法人「鶴崎文化研究会」で鶴崎小に隣接する「哲学の道」に「鶴崎の歴史案内版」《経費50万円》を設置したばかり。)

※鶴崎小付近には薩摩軍が攻めてきた時、吉岡氏の館(出城)があった。

### ◆これからの展開 — 「回顧録」を書く

いずれ回顧録(自分史)をまとめたい。これも、書家の戸次先生から『戸次淡景の書の軌跡とその周辺』という自費出版本を頂いたことによる。終活の中での諸資料の整理を詰めながら、また、幼児期からの記憶に残る思い出を辿りながら、手作りの回顧録をまとめようと思っている。

## 広報部よりお知らせ

今回の有田さんの取材で私も久しぶりに小学校を訪れ可愛い子どもたちに元気をたくさんもらいました。「我が子の親父から地域の親父へ」をスローガンに親路の会を立ち上げた頃を思い出しました。有田さんお忙しい中取材協力ありがとうございました。



協育ネットHPを  
ときどきのぞいてね!